

社協たより

第170号

2016.6.1

点字・墨字版あります

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市大字山部616-145
TEL0949(23)2551 FAX0949(23)2552
e-mail:nogatashakyo@fuga.ocn.ne.jp HP:http://www.nogatashakyo.org/



常に挑戦者として

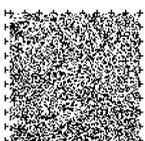
リオデジャネイロ・パラリンピックへ
向けて調整する洞ノ上浩太さん

もくじ

- 定年後の生き方 2
- 地域の輪 (植木緑ヶ丘さわやかサロン)
- 情報の広場 (不登校・ひきこもりを抱える家族相談／平成28年熊本地震に伴う義援金募集／日帰りハイキング・ボランティア募集)
- お知らせ (第41回 よこいと運動会開催／直方市総合福祉センターをご利用ください／フリスベ懇談会 Part2！)
- ご寄付 4
- 図書室 (老人力) 3

(藤田)

と市内の自宅で
意気込みを語っ
てくれました。



毎年国内外のマラソン大会
車いすの部などに、13レース
程出場されます。レースのコー
スに合わせ、遠賀川の河川敷
や数か所のコースを組み合わ
せて練習しています。安全
な練習場には苦慮しています。
昨年の東京マラソンなど数
多くの優勝経験を持つ洞ノ上
さんにとっても「パラリンピッ
クは、日の丸を背負う最高峰
の大会で、メダ
ルを取りたい」
と市内の自宅で
意気込みを語っ
てくれました。

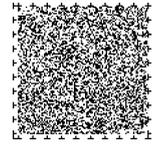
kantera

カンテラ

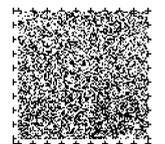
リオデジャネイロ・
パラリンピック
日の丸を背負い、駆ける

洞ノ上浩太さん(42)が、選
考レースである2月の東京マ
ラソンで3位に入り「総合3
位以内、日本人1位、1時間
28分以内」という厳しい条件
をクリアして、日本代表をつ
かみ取りました。北京、ロンド
ンと3大会続けての、パラリ
ンピック出場となります。

この社協たよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。



経験と知識を社会に還元



平成24年から65歳を迎えた団塊の世代が本格的な引退過程に入り、これらの人が培った経験を活かし、社会の支え手となることが期待されています。今回の特集では、定年退職を機にボランティア活動を始められた眞鍋勇さん（85歳）と現役時代からボランティア活動に参加されている棟形和義さん（67歳）に、お話しを伺いました。

長年の経験や知識は「宝物」

ボランティア活動のきっかけは人それぞれだが、まずは、自分が楽しむことが大事だと思う。

男性の場合は、個人的な趣味、前職の経験、女性や奥さんなどの誘いがボランティア活動のきっかけにつながるが多い。また、面と向かって楽しさを伝えることも効果的。

最初は誘われて来た人も、たまには一杯飲みしながら、ボランティア活動に参加することで、私たちのまちを大事にし



おもちゃ図書館のおがたで、子どもたちと遊ぶ眞鍋さん（中央）

ようとする意識が芽生え、生きがいにつながることもある。

また、自らニーズを掘り起し、ボランティア活動を始めてみるのも楽しさの一つ。社協のようにサポートしてくれる組織があるので、活用してみてもいいと思う。

団塊の世代の男性は、経験や知識がとても豊富で、たくさん能力を持っている。能力という「宝物」を腐らせるのは本当にもったいない。ただ、システム社会に長くいるほど、立場上命令されることになれていないことや、自分の能力が分かりすぎているがゆえに、目標やハードルを上げてしまっているように感じる。自分自身のハードルを上げることが、ボランティア活動への入りづらさにつながっていると思う。

楽しみや生きがい社会貢献につながる

ボランティア活動を始めた当初は「何でこんなに男性が少ないのか」と感じたこともあったが、今はボランティアへの価値観が良い方に変わっているように感じる。

自分の楽しみや生きがい、少しでも社会の役に立っていることが分かってもらえれば、ボランティア活動のやりがい

にもつながると思う。

また、人の役に立っている実感があれば、何もなく過ごす一日より、とても価値のあることだと思う。

言葉のハードルの捉え方

ボランティアという言葉自体が、ハードルの高いもののように聞こえてしまうが、自発的に自ら動くということが、大事だと思う。ボランティアという言葉がなくても、日本は昔から、近所などへおかずをおすそわけしたり、調味料を貸し借りするなど、困ったことがあればさりげなくお互いを思いやっていたと思う。ボランティアに近い言葉は助け合いではないだろうか。

眞鍋さん、棟形さんとの出会いから

団塊の世代と言われる人たちの定年後の生き方が注目されている。見通しが効かない時代と言われ、定年後も働くことを希望している人が多いと聞く。

豊かな経験を持ち社会を支えてきた人たちは、どんな生き方をしてくれるのか、社会は期待している。しかし、束縛から解放された安堵感や男性のプライ



遠賀川川下り大会閉会式で、トロフィー等を手渡す棟形さん（右）

ドなどが新しい社会へ溶け込みにくくしている。

障害を持つ人などに対する支援をされている眞鍋さんと、地域の文化保全や地域おこしなどに取り組んでいる棟形さん。お二人の活動分野は違うが、定年後の人生をいきいきと過ごしている。

趣味の延長や些細なことなど、何でもいいので、一歩踏み出してもらえればと思う。

多少だが、ボランティアに関わっている私の感想から言えば「人が喜び、自分が喜び、社会も喜ぶ」と、皆が幸せになれるということだと思ふ。（石黒）

地域の輪

地域に根ざした独自の
福祉活動をご紹介します。

「まあるくつなごう地域」 植木緑ヶ丘さわやかサロン



バスハイクで直方市内を散策した際に、
福智山ろく花公園で撮った1枚

平成20年4月に自主介護予防団体として、植木緑ヶ丘さわやかサロン（以下、サロン）が開設しました。

開設のきっかけは、当時担当地区の民生委員・児童委員をされていた方が、団地内には一人暮らしの高齢者が多いことに不安を抱えていたことです。

サロンは65歳以上を対象に「来たい人が来ればいい」と、とてもオープンな気持ちで実

施しています。

サロンの内容は、直方市の出前講座などを利用した学習会、体操教室、昔遊び、パークゴルフ、バスハイク、俳句、皆でおしゃべりなど多彩に活動しています。また、公民館活動とも連携し、盆踊り後のおにぎり作りや夏休みのラジオ体操などの行事へ参加・協力しています。

サロンには毎回30人程度が会費100円を持って集まります。その他にも毎月第3日曜日に地域で実施している玄関脇リサイクルがサロンの貴重な資金源です。

「毎年、歳を取っていくけど、歳に見あったことをしたい」と代表者の話がとても印象的でした。

ご苦労は多々あると思いますが、自分たちの地域に溶け込み、地域をつくっている「さわやかサロン」に乾杯です。

（田中）

情報場の広場

不登校・ひきこもり
を抱える家族相談

不登校・ひきこもりの子どもたちを抱えた家族経験者が、悩みや気持ちをお聞きします。抱え込まずにお話ししましょう。

■会場

直方市総合福祉センター
（直方市大字山部
616-145）

■相談日（いずれも水曜日）

- 6月22日、7月13日
- 8月10日、9月21日
- 10月12日、11月9日
- 12月14日、1月18日
- 2月1日、3月1日

■時間

10時30分から12時

■問い合わせ

直方市社会福祉協議会
TEL 0949(23)2551

平成28年熊本地震に
伴う義援金募集

平成28年4月に熊本県・大分県内において地震が発生し、大きな被害をもたらしました。これを受け、熊本県・大分県の共同募金会では被災された方々を支援することを目的に義援金の募集を行っております。

また、直方市総合福祉センターでは、募金箱の設置と義援金の受付を行っておりますので、皆様のご協力をお願いします。

■義援金募集期間

平成28年6月30日まで

■募金方法

被災地県の共同募金会への口座振込または、福岡県共同募金会直方市支会へ持参

■問い合わせ

福岡県共同募金会直方市支会
TEL 0949(23)2551

参加者 ボランティア募集

昨年度からひまわりキャンプに代わり、日帰りハイキングを開催しています。ぜひご参加ください。

■日時

平成28年8月21日(日)
9時から16時

■行き先

千石水辺公園（宮若市）

■参加費

無料

■主催

日帰りハイキング実行委員会・ボラ連青年部

■問い合わせ

久保直幸（実行委員長）
TEL 090(5924)0603

図書室



「老人力」

著者 赤瀬川原平
発行所 筑摩書房
直方市立図書館所蔵

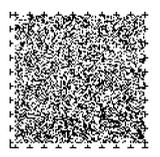
人間、歳を取ると物忘れがひどくなるというのは誰しも「えー」と「何だったかな」ということがよくある。友人、仲間どうしで「えー」と「ほら、あの、ほら、あれでしょ、あの、ほら、あれ」とお互いに忘れてしまっている。

でも「あれ」だということは、お互いちゃんとわかっている。でも名前が出てこない。「おっしゃることがわかる」で大笑い。

こういうのを「老人力がついてきた」という。物忘れも一つの新しい力なんだから、もっと積極的に老人力、なんてどうだろう。若い人には無いのだから。

いいね。老人力。人生まだまだ今からだ。

（広田）



障害者、高齢者、子ども、ボランティア誰もが力を合わせて

第41回 よこいと運動会を開催します。

よこいと運動会は、障害や年齢に関係なく、誰もが楽しめる運動競技を通して、皆が“よこ”につながることを大切にしたい運動会です。

■日時 平成28年6月5日(日) 10時から15時頃

■会場 直方市体育館

■無料送迎バス

- ・直方駅発 1便 8時50分 2便 9時20分
- ・体育館発 15時頃(全日程終了後)

■注意

- ・体育館シューズとシューズ入れをお持ちください。
- ・昼食が必要な方は各自ご持参ください。

【問い合わせ】

直方市社会福祉協議会

Tel 0949 (23) 2551

あなたも楽しい1日を

直方市総合福祉センターをご利用ください。

直方市総合福祉センター(直方市山部)〔以下、センター〕では、年齢や地域を問わず、趣味としての囲碁や俳句、カラオケ(無料)などを楽しむことができます。また、歌や踊りの発表の場として演芸大会なども開催しています。

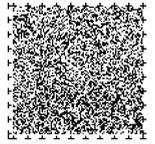
さらに、毎週金曜日の「にこにこ教室」では、軽い体操やゲームで汗を流しています。その他にも、各種団体の会議や講演会などでもご利用できます。

センターの開館時間は、9時から16時30分(受付は16時まで)で、休館日は日曜日、祝日、年末年始です。入館料は200円ですが、会議室などの使用は、別料金です。詳しくはお問い合わせください。

【問い合わせ】

直方市総合福祉センター

Tel 0949 (24) 9030



新しいフリースペースについて話しましょう

フリースペース懇談会 Part2 !

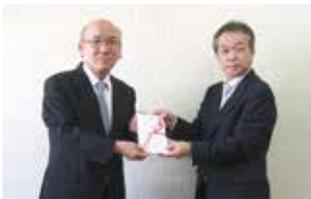
障害者相談支援センター一ふるが今年の3月末でなくなりましたが、併設していた「交流広場 7番地」を利用していた人を中心として新しい居場所(フリースペース)の設置を望む声が大きくなりつつあります。

そこで、第2回目となる「フリースペースのあり方を考える懇談会」を開催します。1回目(1月23日開催)の結果をふり返りながら、今後の方向性などについてみんなで話し合ひましょう。

申し込みは不要です。詳しくは直方社協まで。

■日時 平成28年6月18日(土)10時から11時30分まで

■会場 直方市総合福祉センター



平成28年3月2日(水)に、イングスクラブ愛の募金活動で集まった募金を、福岡ひびき信用金庫イングスクラブ様より寄付していただきました。



平成28年3月11日(金)に、直方市役所永友会様より、地域福祉に役立てて欲しいと寄付していただきました。



平成28年3月11日(金)に、いきいきフェスタ2016の協賛金の一部を、福地校区公民館いきいきフェスタ実行委員会様より寄付していただきました。

● 香典返し寄付金	● 一般寄付金
● 中 泉 (故) 清永 邦彦	● 福岡ひびき信用金庫
● 上新入 西河 康洋	● イングスクラブ
● 植 木 (故) 土谷 スマ子	● 直方市役所 永友会
● 頓 野 (故) 岡村 知恵子	● 福地校区公民館
	● いきいきフェスタ実行委員会
平成28年2月11日から 平成28年5月10日 13件 合計金額 380,730円	● 山 部 (故) 近藤 留次
(お名前は承諾された方のみ 掲載、敬称略)	● 感 田 (故) 高田 清敏
	● 丸山町 大塚 恵信
	● 中 泉 (故) 小屋松 眞
	● 上 境 (故) 長野 晴敏

ご寄付ありがとうございます。
ごぞいいます。



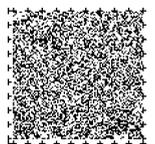
「昨日までは、明日がどうなるか不安で、桜を見ても何も感じなかったが、今日は満開の桜を落ち着いて、見上げることができます」

4月上旬、解雇により収入と住む場所を同時に失った方が、行き先の目途がついた後、路上で漏らした一言です。

生活に困窮しながらも、助けを求めることができずに暮らしている方たちがいます。誰もが安心して暮らせるまちづくりへの一歩は現状を学び知恵を出し合うことかもしれません。

(M)

編集 後記



この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

